

ペンテコステ礼拝を捧げて歩んだ1週間が過ぎ、新しい聖日の朝を迎えました。6月は毎年、ホーリネス信仰である「四重の福音」を礼拝で取り上げています。第1週目は「新生」です。救いの原点である新生の恵みを共に味わいましょう！

「新生児」という言葉の響きと同じように、「新生」とは、イエスキリストを信じることによって起こる、180度の変化を表しています。初めて教会に来た人が、ここは何かが違うと感ずること、教会の人たちとの交わりが、どんな人間関係とも違っていると感動すること、何より礼拝を捧げる時に、帰り道の景色が違って見えること……。父なる神に愛されていること、イエス様を通して新しい命を与えられたこと、このことを信じることによって得られる変化は、多少の違いはあっても共通しています。

それは、この肉体がこの世界に誕生した時と同じように、信仰によってその人の霊が新しく生まれたからだと聖書は語っています。英語では「ボーンアゲイン」「リジエネレイト」などと呼ぶそうですが、まさしく「もう一度生まれる」「土台から新しくされる」経験を表している言葉です。

「救われる」と教会では言うけれど、実際に何が体験できるのか。信仰を持つことで結局どんな良いことがあるのか。そんな単純な疑問に、「確証の教理」に重きを置くホーリネス信仰は、「四重の福音」を持って分かりやすく教えています。

人生は、生まれた時にその運命は既に定まった、とすることができるとでしょう。生まれた国、自分の親、与えられた肉体は、自分自身を決定づけるからです。しかし、信仰によってもう一度生まれる時、その存在は土台からそっくりもう一度新しく作り変えられるのです。父なる神の子どもとして、神の国のひとりとして、永遠の命を与えられた者として！

人生には失敗や挫折、隠しておきたい出来事なども経験します。どんなに成功や富を築き上げても、土台の古傷や失われた部分を、支えることはできません。人生が崩壊しないよう、バランスをとるしかないのです。

しかし、イエス様の十字架の贖いを信じる時、神の言葉がその人を、もう一度生まれ変わらせるのです。古いものは過ぎ去って、全てが新しくなるのです。もちろん過去は消えません。けれど、神の愛がその人を包み、平安と喜びと慰めで満たしてください。辛かった過去でさえ、その時にも主が傍にいてくださったことを、信仰の目で発見することでしょう。そのとき、神の愛の長さ、高さ、深さ、広さがどれほどであるかを知りなさいと言う、聖書の通り、自分自身を包む、目に見えない存在に生かされている恵みを覚えることができるでしょう。自分で踏ん張るのではない、自由な世界がひろがるのです。救いを与えられた原風景は、なんと美しいことでしょう！